二号に関する固定モニターからの意見

★表紙の変更について

学生　「明るく斬新でよい」、「すてきなものになって、企業のパンフかとおもった」

教職員　「突然斬新なデザインになったのでびっくりした。次号が楽しみ」、「次号も美術作品的なものを期待したい」、「非常に魅力的。在・卒業生の作品を使うのは理想的」、「中味が面白そうだと思わせる」。「ディズニーランドの広報パンフ」という酷評も。

学外　「デザイン、色ともしゃれていて、素晴らしい」

★特集『自己点検・評価』について

学生　「広大の発展のためにも厳しく自己評価し、悪い所は改革してほしい」、「たいへん勉強になった」、「今大学は存在意義を問われており、フォーラムはこういった記事にいっそう力を入れるべき」

教職員　「避けることが出来ないテーマ。原医研の記事は具体的で驚いた」、「分厚い白書全体に目を通す暇はないので、今回の特集は全体の流れを知るのに役だった」、「今後首脳陣の強力なリーダー・シップが必要だろう。原医研の丹羽先生の記事に同感した」、「丹羽氏の内容は興味深かったが、活字が小さくて残念」、「委員長からの苦労話、自己評価はそれなりに評価したい。これに対し外部の者はどう評価しているかたずねることを提案する。この度の公表白書が自己評価といえるかと疑問をもつ」

学外　「企画は面白い。自己点検を文部省が管理に使うのなら、大反対。弘　睦夫氏の意見に共感」

★「開かれた学問」について

学生　「理系の用語に難しい専門用語が多い」

教職員　「もう少し平易な言語での記述が望まれる」、「楽しく読んだ。理系の記事は英文字があるので、横書きの方が読みやすい」、「筆者のプロフィールを載せて欲しい。図や写真を多用して内容を平易にして欲しい」、「文系の記事をもう少し読みやすく分かりやすいものにしてほしい」、「吉田氏の文章は歴史的に理路整然と記されているが、素養のないものにはコンパクトすぎて理解しにくい。史実を一部カットしても分かりやすい例などを引いて欲しかった。宗岡氏の記事は表の一部をカットしてでも、神経ペプチドのイントロが欲しかった」、「宗岡記事は、科学朝日等の雑誌に載せるように、専門が全く異なる読者にも分かるようにぜひ書く必要がある」

学外　「もう少し欄を広げ、楽しく、内容を充実して欲しい」

★「留学生の眼」について

学生　「留学生がレポートを書くだけという形式はマンネリ。他の形式を採用したら」、「演歌で日本語の勉強をしたというのが面白かった。僕たちも英語の歌で英会話を勉強するのがよいのかも」、「留学生の目で見ている日本に対して、日本人はどう考えているか知りたい」（留学生）

教職員　「日本人が留学生とフランクにつき合えないということがある。私もなぜ日本人は自国の人と同じように外国人を扱ってくれないのか、という留学生の訴えがきっかけで親しくつき合えるようになった。この欄は長く続けて欲しい」、「顔写真だけでなく、広大での生活などがよくわかるスナップ写真がついたのがよい」、「写真に写っているのが筆者だけでない場合、せめて指導教官の固有名詞くらいは載せた方が、見る方も関係者も面白いのでは」、「留学生が本当に日本語で書いているのか？　きれいな文章に感心する」

学外　「率直に意見が表明されていて面白い」

★要望など自由意見

学生　「各学部が今後どのような方向に進むのか、取り上げて欲しい」、「広大生の作品、面白い事情、議論を呼ぶ話題を期待する」、「告知板で企業主催のシンポジウムやセミナーなども紹介して、学生の自己啓発に役立つように欲しい」

教職員　「目次ページの世界の大学の写真はよいが、旅行ガイドに載っているようなものはやめてほしい」、「学長インタビューの連載に期待する。学生からの新カリキュラムに対する要望・感想を」、「告知板のようなニュースの充実を期待する」、「西条キャンパスの交通問題。駐輪場に屋根がないのはおかしい。駐車場についても二〇年前の計画ではないか？」、「読者からの手紙に国際紛争の一面を垣間みた感じがした」、「読者からの手紙を取り上げたのはよいが、その対応を大学院生の著者の意見で逃げているのは関心しない。編集責任者の見解を載せるべき」、「エッセイのような学生の興味をそそるような記事を増やして欲しい」、「本部事務棟の位置でA案、B案で何度も会議が開かれるのはおかしい。そんなに目立ちたければ、屋上にシンボルタワーをつけたらどうか？」、「奥田氏、中山氏の建設的提案をそのままに終わらせたくない。学内、学外にもっと宣伝を」、「奥田氏のような体験的エッセイもよいと思うが、他分野に関して論じているのが納得いかない」、「全体のページ数を減らしたほうがよい」

学外　「学生の教養を高める一般教育の役をもたすような原稿を載せたら。教官の教養教育にもなる。例えばゲーテの話、免疫とエイズの話など。」